

令和3年度 神栖市地域医療体制検討委員会・意見交換会  
サマリー

1. 日時・場所 令和4年2月1日（火）19:00～20:25  
オンライン開催
2. 出席者 出席者 委員12人 委員随行5人 市内医療機関6人 市7人  
(別紙名簿のとおり)

3. 委員会結果

議事に先立ち、石田進市長、永井秀雄委員長から挨拶があり、事務局から委員紹介が行われた。

その後、藤枝昭司医療対策監から神栖市地域医療体制検討委員会「議論のまとめ」を踏まえた各種取組みの状況について報告が行われた。

<報告事項>

- ① 議論のまとめの提言9分野
- ② 救急医療体制の強化
- ③ 病診連携の強化・在宅医療の充実
- ④ かみすの医療に関する市民と専門家の懇談会
- ⑤ 若手医師きらっせプロジェクト
- ⑥ 医療教育へのチャレンジ
- ⑦ 課題別調査結果

報告の後、永井委員長が座長を務め、意見交換が行われた。

4 意見交換の内容

(1) 医師の派遣要請について

- ① 鹿行保健医療圏地域医療構想調整会議における合意をもとに、県地域医療対策協議会の決定を受けて、医科大学に対して神栖済生会病院と白十字総合病院への医師派遣要請をしている経過報告がなされた。意見交換では、地域医療対策協議会のこの要請が実現することにより、より救急に適応できる体制づくりが進む期待が示される一方、「要請通り派遣される見込みが期待できず、医師確保は今後も簡単にはいかない可能性が高い」という懸念の意見、「繰り返し訴えていく努力」の必要性を説く意見があった。なお、ここ数年の3研修医療機関の常勤医師の増員成果を評価する意見も出されたところ。
- ② 「医師の働き方改革」に関して、派遣元の医科大学から、将来の派遣を縮小せざるを得ない話が出ていることや、近い将来に市内救急病院の当直体制を維持できなくなるという課題認識が示された。

## (2) 教育研修環境整備について

- ① 指導医クラスも若手医師クラスも、教育体制が整うとともに、自分のスキルを発揮できる環境があつてこそ、働きたいと思ってもらえることから、医療機関側や行政が一体となり、魅力をつくり、医師を派遣する側に積極的にアピールしていくべきという主旨の意見が多く出された。
- ② 魅力づくりにあたっては、「専門的な分野や新しい分野に取り組む機会の提供」、「研究のネットワーク提供」「診療と研究の両立」「神栖済生会新病院整備に当たっての教育研修環境整備の重要性」「10～20年後を見据えた対策を講じる必要性」「市の『きらっせプロジェクト』への積極的な参加・協力」などの提言や取り組み姿勢が示された。
- ③ 一方、限られた医師数で、現場の診療を行いながら若手医師を指導することの難しさも指摘されたところであり、指導体制の充足と指導時間の確保が課題として認識できたところ。
- ④ 指導医からは、「病院内での若手医師の活躍が、院内を活気づかせることにつながる」また「筑波大学の学生は、市内での地域医療実習を通じて、神栖市勤務を希望する初期研修医が増えているので、今後もこのような医師を育成できれば」といった見解が示された。
- ⑤ 研修環境づくりには、例えば、多大なお金と時間をかけて遠方へ放射線治療に通っている現状を改善し、この地で充実化を図れば、高度医療を提供することができるとともに、そこで学びたい学生も集まることが期待できるといった意見もあったところ。
- ⑥ 県地域枠の数は毎年着実に増えており、10～20年後には、医師派遣元の大学が派遣先を探すようになるという試算もある。現在の医師不足がずっと続くわけではないため、医師の受入れができるシステム、研修ができるシステムを整備しておくことが重要との提言もなされた。

## (3) 看護師やコメディカルの育成・確保について

- ① 医師だけではなく看護師も含めて診療体制を充実させることが重要であり、看護師やコメディカルのことも常に考えながら地域医療のレベルを上げていく必要がある旨の意見が示された。その際には、行政だけでは解決できない問題であり、各医療機関が、ひとつひとつを着実に、誠実にこなしていくべきことと提言された。
- ② 神栖済生会新病院が整備されると、多くのコメディカルが必要になる一方で、医療機関同士の奪い合いになることが懸念されている旨の指摘があつた。

## (4) 救急医療について

- ① 救急医療ワーキングチーム会議の開催や各医療機関での救急体制の強化、消防本部の自己研鑽などが積み重なって、当市における「不応需の回数の削減」や「搬送時間の短縮」「市内の収容率の上昇」などにつながっている様子が、事務局及び参加者から報告された。
- ② 不応需件数では、令和3年度の発生回数が、平成29年と比較して半減できていることについて、市民側から、期待と感謝の意が示された。
- ③ 金曜・土曜・日曜の救急搬送先としては、以前は市外の医療機関に頼っていたが最近では市内での受入れ割合が高くなっている状況や、コロナ禍での救急搬送に苦慮しているものの、現場の救急搬送業務はひっ迫しているわけではなく、安定したサービスを提供できている旨の報告があつた。

#### (4) 病診連携について

- ① 医師が少ない地域だからこそ、各医療機関の連携が重要であり、現在ワーキングチーム会議で進めている試行事業が進められるよう関係医療機関の協力が求められたところ。
- ② 神栖済生会病院への消化器疾患の紹介事例や、医療機関が少ない中での病診連携の軸として、特に、波崎地域では神栖済生会病院との連携が期待されている旨の意見が出された。

#### (5) 医療教育について

- ① 事務局から、新たな取り組みとして「医療教育へのチャレンジ」をする概要の説明がなされた。その際には、「医療教育に携わりたいという市内の若手医師が存在していることから、そうした方々の協力を得て、市独自の取り組みとして発展させてもらいたい」旨の意見があった。

#### (6) 医科・歯科連携について

- ① 今後、鹿行地域の医師と歯科医師の連携について協議がなされていく方針が説明されたとともに、がん治療や生活習慣病の発見などの面において、医科・歯科の連携が非常に重要であることが再確認された。

#### (7) 全体を通じて

- ① 地域医療体制の整備は、行政や医療機関など、関係機関が力を合わせる事が重要。相互に意思疎通を図りながら、どうすれば神栖市民が安心して医療を受けられるのかを検討していきたい旨の意見が示された。
- ② 鹿行地域で活躍している医師は鹿行地域出身者も多いため、この地域から医師を育てることが、地域医療の充実につながるとの意見もあったところ。

令和3年度 神栖市地域医療体制検討委員会・意見交換会 出席者名簿

日 時 令和4年2月1日(火)

19時00分～20時25分

場 所 オンライン開催

○ 神栖市地域医療体制検討委員会 委員

(敬称略)

	所属	役職	氏名	備考
1	茨城県立中央病院	名誉院長	永井 秀雄	委員長
2	鹿島医師会	会長	松倉 則夫	
3	鹿島医師会神栖支部	支部長	武藤 隆雄	欠席
4	神栖市歯科医師会	会長	石橋 英郎	
5	成田赤十字病院		板寺 英一	
6	東京医科歯科大学医学部附属病院		内村 祐之	欠席
7	神栖済生会病院	院長	中村 慶春	(代理) 院長代理 長野 具雄
8	神栖済生会病院	副院長	西 功	
9	白十字総合病院	院長	鈴木 善作	
10	鹿嶋ハートクリニック	理事長	大城 恬瑩	
11	市民代表	土合西行政区長	菅原 敏晴	
12	潮来保健所	所長	緒方 剛	
13	鹿島地方事務組合消防本部	消防長	池田 英雄	
14	鹿島地方事務組合消防本部	メディカル アドバイザー	鶴岡 信	

○ 委員随行者

(敬称略)

	所属	役職	氏名	備考
1	白十字総合病院	事務長	磯部 晃彦	
2	白十字総合病院	医事課長	池宮 毅	
3	鹿嶋ハートクリニック	事務長	平手 栄一	
4	鹿嶋ハートクリニック	事務長代理	高宮 椰弘	
5	鹿島地方事務組合消防本部	参事兼救急救助 課長	武藤 隆	

○ 市内医療機関

(敬称略)

	所属	役職	氏名	備考
1	かしまなだ診療所	理事長	五木田 道明	
2	かしまなだ診療所	事務長	五木田 みか	
3	かみす中央メディカルクリニック	院長	長島 英一	
4	かみす中央メディカルクリニック	事務長	杉本 巖	
5	五郎台ファミリークリニック	院長	門脇 利明	
6	すずきクリニック	院長	鈴木 洋輝	

○ 市

	役職等	氏名	備考
1	神栖市長	石田 進	
2	健康福祉部長	畠山 修	
3	医療対策監	藤枝 昭司	
4	地域医療推進課 課長	野口 忠典	
5	地域医療推進課 課長補佐	吉川 徹	
6	地域医療推進課 係長	山澤 翼	
7	地域医療推進課 主幹	川内 豊	